

2023年5月にAAFCに入会させて戴きました本多幸治と申します。

現在は埼玉の川越の隣にある富士見市というところで「音楽談話室」という名前で、近隣の音楽好きの(殆ど年配者)の人達と、月一度程度ですが、各自が好きな音楽を懸けて楽しんでおります。

内容は、タンゴ、クラシック、ワールド、民謡(津軽三味線・沖縄等)、ラテン、ロック、懐かしい系の日本歌謡等で、オーディオの機材も、組織力も、本会(AAFC)と比べるべくも無いですが、それなりに楽しんでおります。

そして、AAFCとの関係ですが、それは、78回転のSP盤です。コレクションが趣味で、SP盤もそのひとつでした。そのきっかけは音楽評論家の油井正一さんの本でした。

それはエメット・ハーディ(1903-1925)という早世したコルネット・プレイヤーの話で、天才プレイヤーのビックス・バイダーベック(1903-1931)の師匠格の人で、1920年代から女性コーラス・グループで有名だった、ボスウェル・シスターズの作品に、ビックス・バイダーベックの影・気配が感じられたのだが、その理由が分からなかった。或る時、そのエメット・ハーディの唯一の恋人が、ボスウェル・シスターズの次女のマーサ・ボスウェル(1903-1958)だったということですのですべてを納得した、という話からです。

レコードが残されているバイダーベックは、天才・名人として評価されるのに、エメット・ハーディは録音したレコードが1枚も残されていなかったため、伝説上の名人としての評価しかされていない、ということです。



エメット・ハーディ



ビックス・バイダー・ベック



ボスウェル・シスターズ

ブルースにも同じ様な話があり、レコードが残されていない凄いブルースマンが、レコードが残されているブルースマンの十倍以上いたとの事。

レコード盤1枚で、その人の人生の評価自体が変わってしまうということで、何か音楽家としての運命も、それで変わってしまっている気がします。

こんな様な話を受けて、それらの未だ見ぬ世界に触れてみたいとの希望からSP盤を少しずつ集めていたのですが。

それらを実際に懸けて音を聴けそうな所を調べても、本会(AAFC)と湘南Cしかなく、そこをお願いして、会員にさせて戴きました。

AAFCでは、実際に蓄音機を自作されている、会員の小笠原さんのお話を入会後お聞きすることができ、針は、竹針を使ってSP盤自体を傷めないようにしている、というオーディオへの取り組みの姿勢・配慮等のレベルの相違を実感し、感心しました。(自分では平気で鉄針を使用しそうでした)

SP盤について、実際にSPをプレイヤーに懸けられなくても、レコードのラベルのタイトルや演奏者などを記述したラベルの内容を観ながら、いろいろな想像(妄想?)することも、それでも、結構楽しいものでございます。(?)

最近、少し気になっているプレイヤーですが、クラリネットのレオン・ロップロ(1902-1943)という人で、同じクラリネットの名人の、キング・オブ・スウィングと呼ばれるベニー・グッドマンが必死にマネをしたプレイヤーみたい。その演奏もSPに残されている様で、実際に聴いてみたいですね。



ジミー・ブラントン

それから気になるプレイヤーとして、デューク・エリントン楽団のベース奏者 ジミー・ブラントン (1918-1942)。

SP盤にも一部残されているライナーノーツ。早くして亡くなった名ベーシストの名前が、そのプレイヤーズ・リストに記されていた時の嬉しさ。

この盤は、エリントンの最盛期の録音とのこと。

また、自分の紹介で申し訳ないのですが、好きな音楽の分野が、ブルース、ジャズ(特にアーリージャズ)、ロック、ワールドといったところ。

自分も音楽好きとは思いますが、どういう訳か、コテコテのブルースが大好きで、何か普通音楽ファンの方と感覚が少しズレている気がします。

本会にも、憂歌団の唄を歌っていたとか、ブルースロックのクリームが好きだったとか、ブルースの勇者の方もおられる様で、頼もしく思っております。

それらの中でもブルースが好きです。ここでは、お話出来る若干のスペースを戴いて、私とブルースの関わりを少しですがお話させて戴きます。

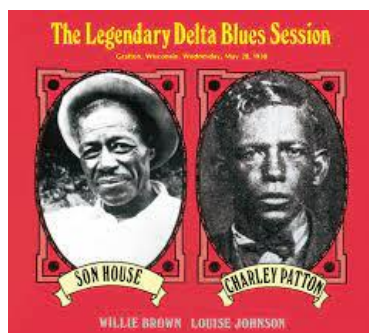
先ずは保守本流の「デルタ・ブルース」「シカゴ・ブルース」ですが、恥ずかしながら、ファンキーというか、黒人フィーリングが馴染めず、始めは白人のブルース「ホワイト・ブルース」でした。

- ① スティーヴィー・レイ・ヴォーン、②エリック・クラプトン、③ゲアリー・ムーア
④ジョニー・ウィンター、あたりのプレイヤーが大好きです。

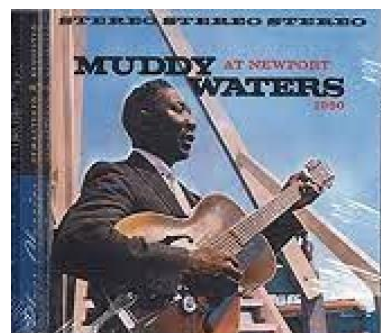
その後、「モダン・ブルース」に入り、ファンキーなギターが素晴らしく、①B. B. キング、②アルバート・キング、③フレディ・キング、④ローウェル・フルソン、ロバート・クレイなど素晴らしいギタリスト、ブルースマンは数多くいます。

そして、保守本流の「シカゴ・ブルース」です。①マディ・ウォーターズ、②オーティス・ラッシュ ③ジュニア・ウェルス、などこれも多数。

そこで最近では、「ミシシッピ・ディープ・ブルース」に入りこんで、地元にあるジュークジョイントと呼ばれる酒場での演奏風景が凄くて、参ってしまいました。



ミシシッピ・デルタ・ブルース
サンハウス、c. パットン



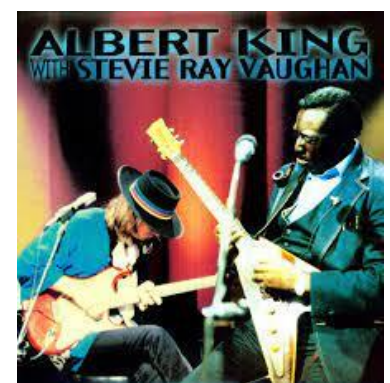
シカゴ・ブルースの雄
マディ・ウォーターズ 1960
ニューポート

70歳を過ぎてレコードデビューをした、“Tモデル・フォード”という人のバンドは、歌は下手、楽器はチープ、それでも、繰り返されるエレキ・ギターのフレーズと、ドラムの強烈リズムで、グルーヴ感というか、催眠性がある演奏に、客は踊り、皆が音楽にだんだん嵌り込んで行くのが凄かったです。

これらは「ファットポッサム」というド田舎ブルースを録音しているレーベルで、まあ根強いファンがいる様です。

ブルース(正しい発音はブルーズらしい)というと、つい舞い上がって、どうしても良いようなことをダラダラ書くクセがあり、ご容赦くださいませ。

最後に、こんな埼玉の音楽ファンを受け入れて戴きました会員の皆様に感謝し、やさしい笑顔だった前協田会長に哀悼の意を表させて戴きます。



ザ・セッション アルバート・キングと
スティーヴィー・レイ・ヴォーン

これからも普通の範囲で、ライブハウスなどで、ブルースを楽しんでいますし、これからも楽しんでいきたいと思っております。ブルースは年齢に関係ないジャンルであり生涯を通じて楽しむつもりです。

以上

【参考】

＜♪ブルースについて

20世紀以降のポピュラーミュージックに、とても大きな影響を与えたとされているジャンルのひとつがブルース(blues)です。

ブルースという言葉の語源は、英語で悲しみや孤独などを意味するブルー。つまり、孤独や悲しみなどを表現する音楽として誕生した様です。

ブルースにも今日ではあらゆるスタイルのものがありますが、基本的には12小節で構成されています。この12小節形式はブルース形式と呼ばれている様です。

リズムパターンは通常、シャッフルで、はねるようなスタイルが多いと思われます。

アメリカ南部の黒人音楽が発祥と言われており、現在でもアメリカではブルース文化が深く根付いています。

ちなみに、日本の歌謡曲のタイトルには「〇〇ブルース」というものが多いですが、これらのほとんどは本来のブルースとは大きく異なっています。

音楽としてのブルースというよりも「ブルーな気持ちを歌ったもの」という意味合いが強いようです。



外山喜雄さんとハドソン湾で。(2015)



ルイ・アームストロングの墓石前で

外山 喜雄(とやま よしお、1944年3月5日 -)

“日本のサッチモ”こと日本のジャズトランペット奏者、日本ルイ・アームストロング協会会長。

青少年を犯罪から守るため青少年に楽器を届ける活動を長年続け、活動が認められ、

ニューオーリンズ名誉市民となる。現在も、ご夫婦で “デキシー・セインツ” としてバンドで活躍中。



我孫子オーディオファンクラブ <http://www.aafc.jp/> 2023年11月号

編集責任者 大久保貴枝子 / 監修 鈴木道郎